

医療崩壊の一提言

田村医院 田村 肇



医療が社会問題となっている昨今、徳島県北部の拠点病院である健康保険鳴門病院で当直医が入院中の70才代男性患者に解熱作用のあるサクシゾンと思いこみ、劇薬の筋弛緩剤サクシンを誤って処方し、患者が死亡した。マスメディアは、病院における安全軽視の姿勢露呈と厳しく批判し、人命を預かる医療機関へ検証と再発防止体制に万全を期すべしと論評した。

一方医療界のみならず社会に大きな関心を惹起した2例

○福島県立大野病院で癌着性前置胎盤の妊婦死亡例（一審無罪）

○杏林大病院での園児割りばし死亡事故例（二審無罪）

特に大野病院事件は前代未聞の警察による突然の医師逮捕例であり、正当な医療行為そのものが否定された衝撃的な事例であり、医師会・医学会挙げて医師の正当性を主張した。そしてこの事件を契機として、人命救助、命の尊厳を意識の中心に置き、正義と良心に従い、真摯に医療に携わってきた医師達は、訴訟やトラブルと隣合わせの産科、救急、小児科等の診療科より去って行った。現在の正当な医学レベルと常識を維持し、又医学の特殊性を無視し、業務上過失致死傷の罪で問う事態は異常であり、権力を振りかざした警察の司法の横暴であり、容認すべきでない。不当逮捕等の背景に、司法や一般社会が医療・医師の現場・現状への無理解がある。そこで次の様な情報を発信し、国民の理解、意識変革を得る努力が必要と考える。

医療は、多様な動機による人間の行為や行動により引き起こされる犯罪や事件・事故と異なり、多忙を極め、過酷な労働条件で善意と固い使命感、そして犠牲的な精神のもと、医師達は病める患者やその家族の思い、そして時には念じる様な期待と重圧の中で最善を尽くす診療を行っている。この事を十分に伝えるため、次の文をポスターとして各病院、院内に掲示してはいかがでしょうか。

〈患者の皆様へ〉

当院は患者さんと医師等との相互理解のもと、当院の立場で最適の医療を行っております。人の身体は複雑であり、医療に万全万能はございません。以上御承知おき下さいます様お願い申し上げます。

○○医師会

○○病院

以上、医療・医師の実態を情報として流し、国民に理解を求める事も肝要ではないかと考えます。患者たらいまわし事件の多発等に象徴されるように、現在、医療は崩壊の危機に直面しており、患者も、医師も、そして国民も共に被害者である。国民の最も大切な財産であるこの医療の歪みを立て直すためにも私達医師会は高い倫理観と正論を持つ会員・職員・家族相互の団結と連携を深め、困難を克服、徹底した安心・安全対策と固い信頼関係を維持し、社会の期待にたがわぬ存在であり続けるべきであろう。

